

# カーライフに関するアンケート調査結果

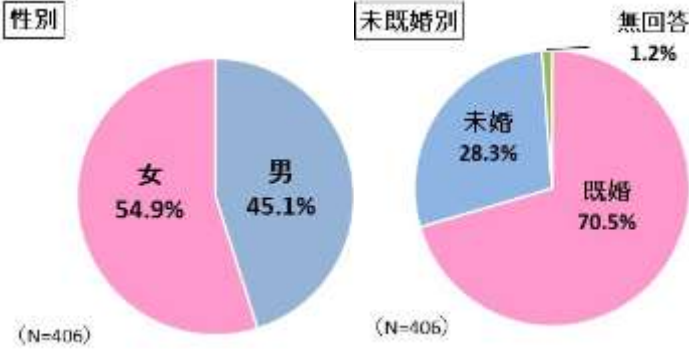
2020.3

愛媛銀行 ひめぎん情報センター

【調査対象】 愛媛県内在住の男女 940人  
【調査時期】 2020年2月上旬～中旬

【有効回答率】 43.2% (406人)  
【調査方法】 愛媛県内支店等にてお客様に配布、無記名、郵送返却

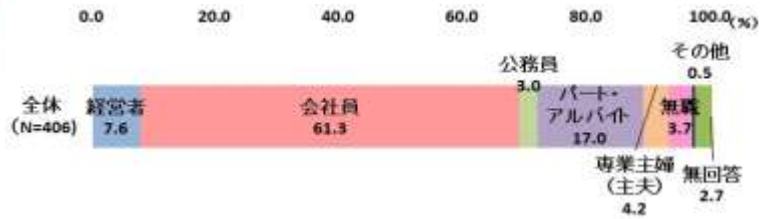
## 回答者の属性



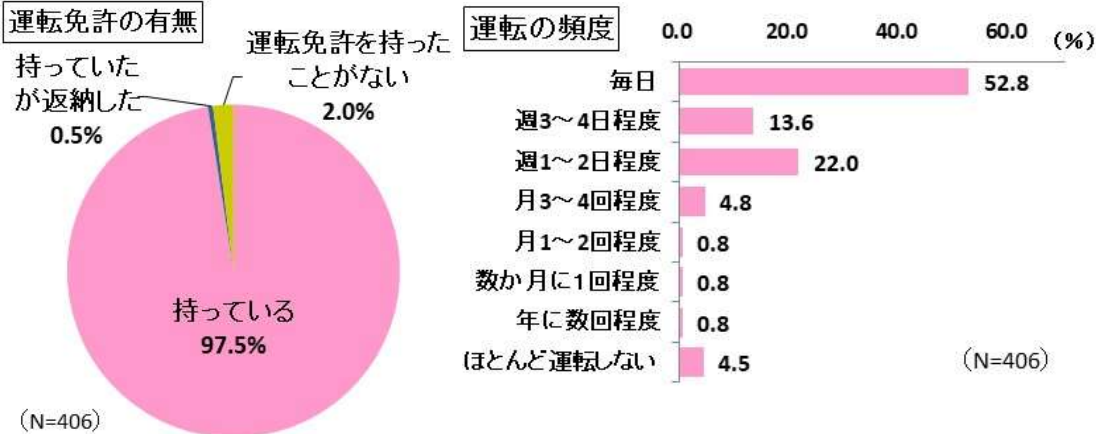
【年齢】 平均 44.3 歳  
19歳 0.2% 20代 15.3% 30代 23.4%  
40代 23.4% 50代 22.4% 60代 9.9%  
70代 4.4% 80代 0.2% 無回答 0.7%

【年収（世帯合計）】 全体 平均 652万8,000円

【自動車の世帯所有率・平均台数】 95.6%・平均 1.7台



## ①自動車の運転免許の有無と運転する頻度



運転免許を「持っている人」は全体の98%近くを占めている。

運転の頻度では、「毎日」している人が最も多く、全体で半数以上。

およそ9割近くの人が週に1回以上、運転している。

## ②自動車を運転する目的

自動車を運転する目的

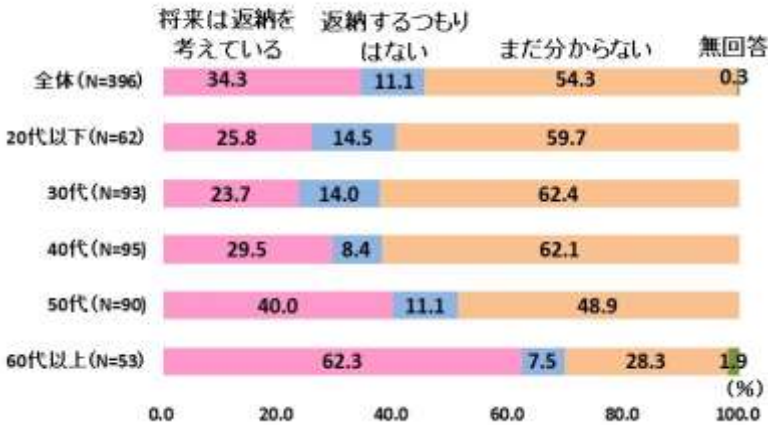


## ③車にかかる維持費（所有全台数分の平均額）※ローン、ETC代は除く

	税金	車検代	任意保険料	ガソリン代	駐車場代
期間	年間	1回当たり	年間	月間	月間
平均金額	5.2万円	14.2万円	8.6万円	3.1万円	0.9万円

#### ④将来、運転免許の自主返納を考えているか

運転免許の自主返納

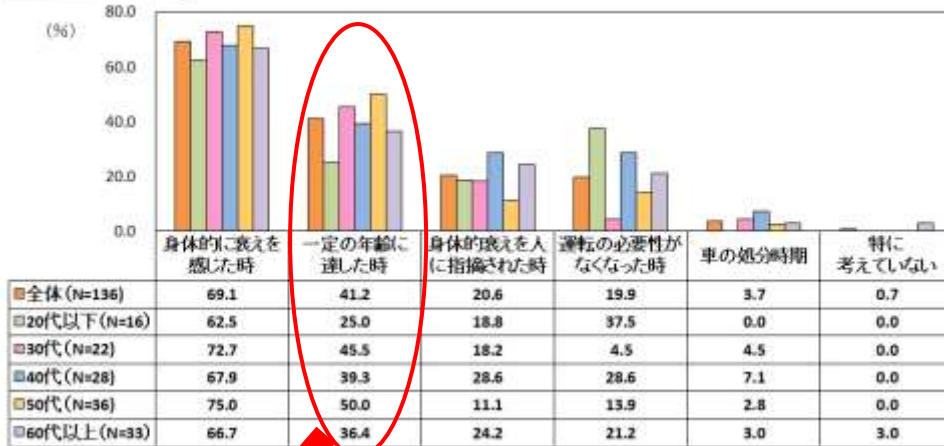


将来運転免許を自主返納するかどうかについては「まだ分からない」人が多く、全体では半数以上を占めている。

「返納を考えている」人は、全体で約3割。年代が上がるにつれて返納を考えている人が増加傾向にあり、60代以上では6割以上を占める。

#### ⑤ (④で将来、免許の自主返納を考えている人のみ) 自主返納するタイミング (複数回答)

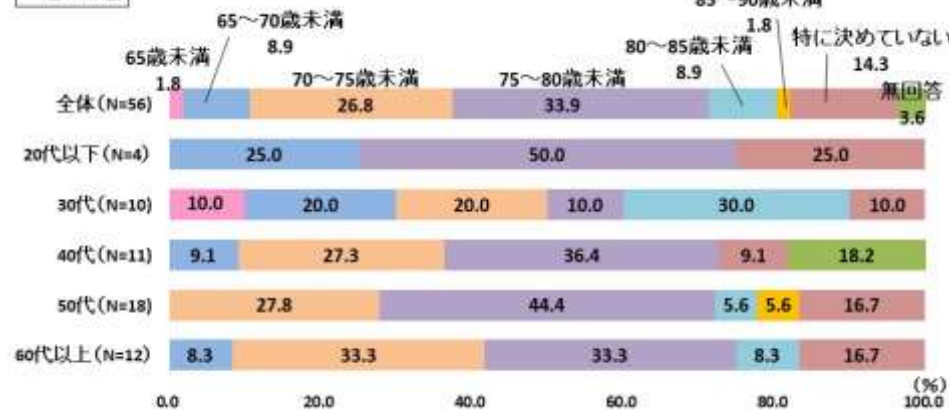
自主返納するタイミング



自主返納をするタイミングは「身体的に衰えを感じた時」が最も多く、全体で約7割。

次いで「一定の年齢に達した時」が全体で約4割を占める。

一定の年齢

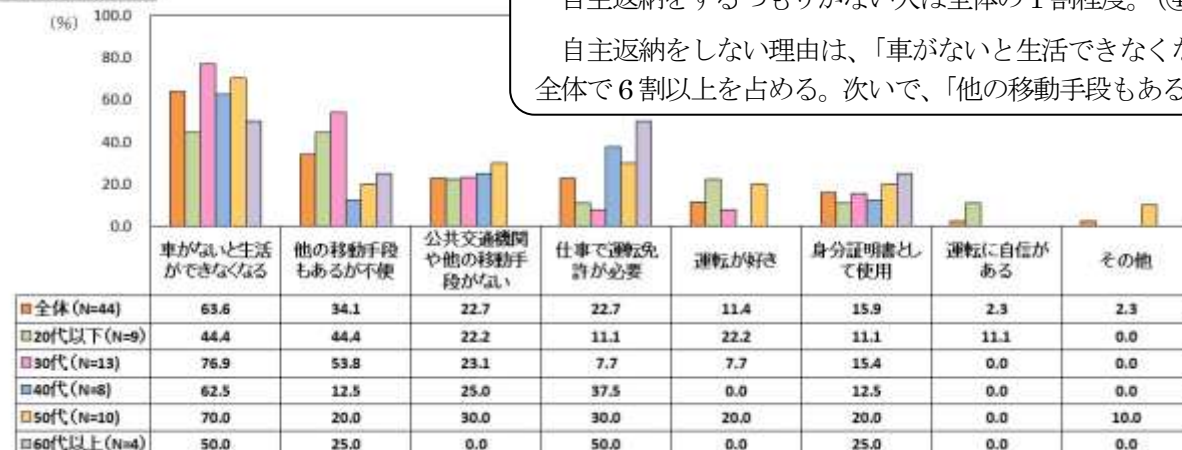


一定の年齢については、全体では「75~80歳未満」が最も多く、約3割を占める。

80歳未満と考えている人が、全体で71.4% (65歳未満~80歳未満の合計)。

#### ⑥ (④で将来、免許を自主返納するつもりはない人のみ) 自主返納しない理由 (複数回答)

自主返納しない理由

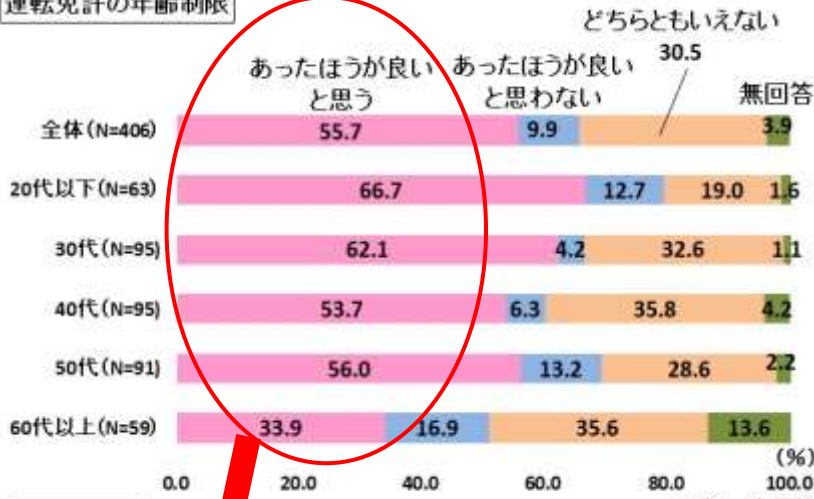


自主返納をするつもりがない人は全体の1割程度。(④参照)

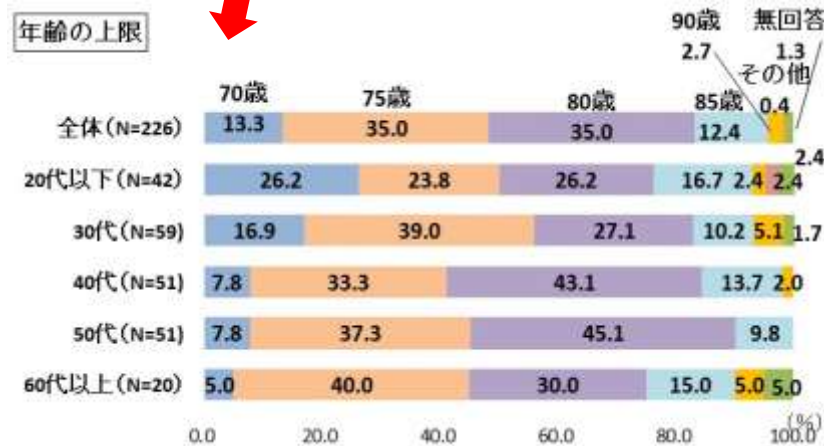
自主返納をしない理由は、「車がないと生活できなくなる」が最も多く、全体で6割以上を占める。次いで、「他の移動手段もあるが不便」が約3割。

### ⑦運転免許の年齢制限と年齢の上限

運転免許の年齢制限



年齢の上限



運転免許に年齢制限が「あったほうが良いと思う」人のほうが多く、全体で半数以上を占めている。年齢が上がるにつれて割合が少なくなっており、60代以上では約3割程度。

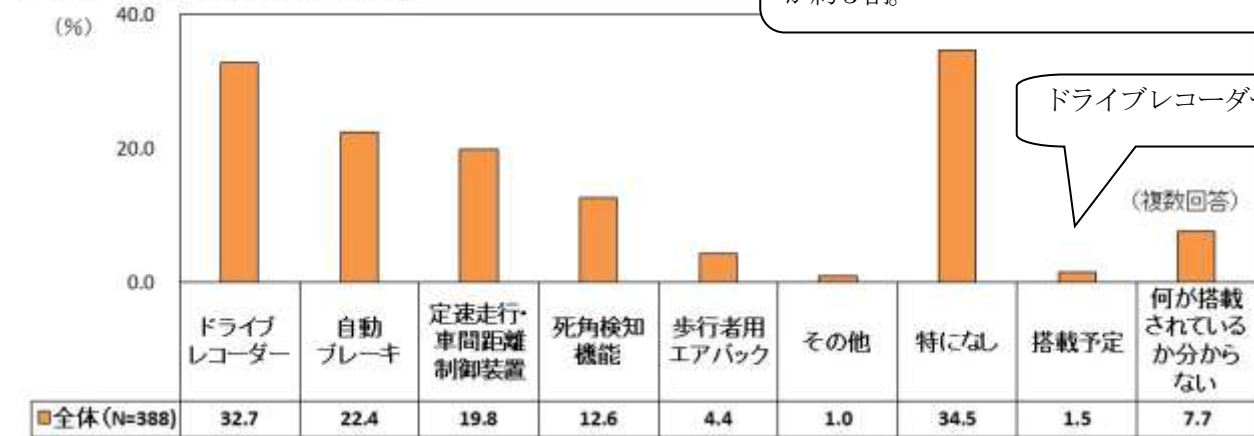
あったほうが良いと思う理由は「高齢者による事故が多発している」や「身体能力や判断能力などが低下してくる」などの意見が多くみられた。

「どちらともいえない」は約3割を占め、理由は、「車がないと生活ができない人もいる」、「身体能力や判断能力には個人差がある」などの意見がみられた。

年齢制限を設ける場合、年齢の上限については、全体で「75歳」、「80歳」がそれぞれ35%ずつ占めていた。

### ⑧家庭の自動車に搭載されている装置・機能 (複数回答)

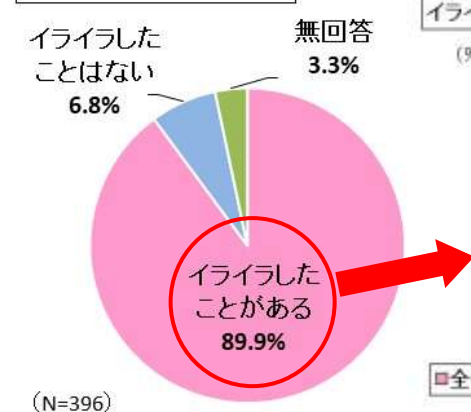
自動車に搭載されている装置・機能



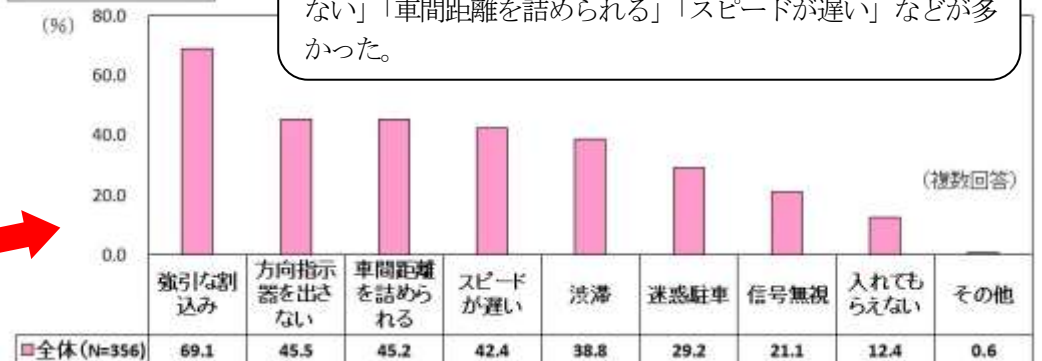
搭載されているものは「特になし」と回答している人が最も多く、34.5%。次いで「ドライブレコーダー」が約3割。

### ⑨運転中にイライラしてしまうこと

運転中のイライラの有無



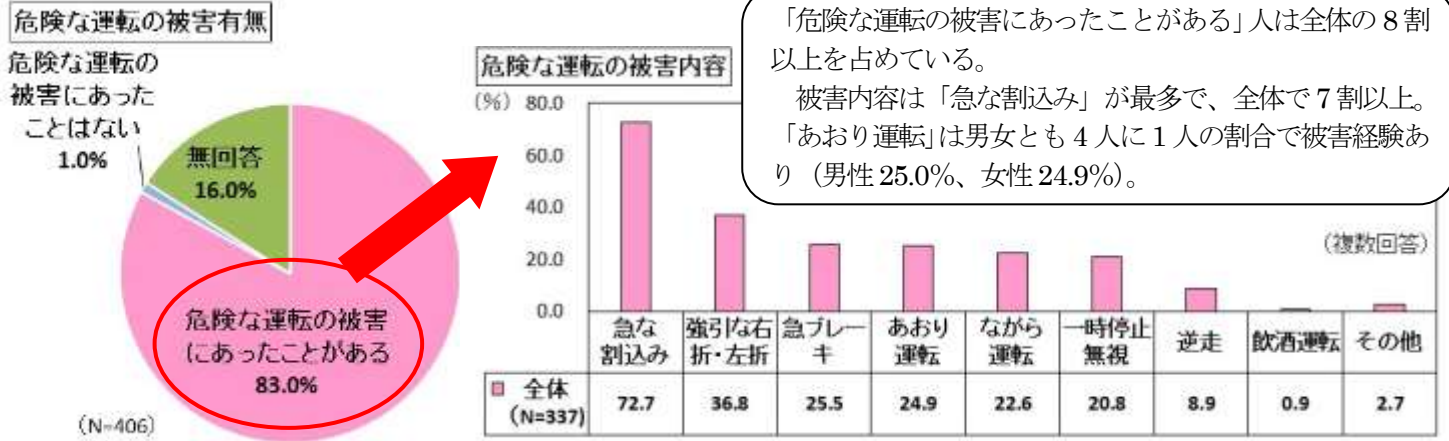
イライラしてしまうこと



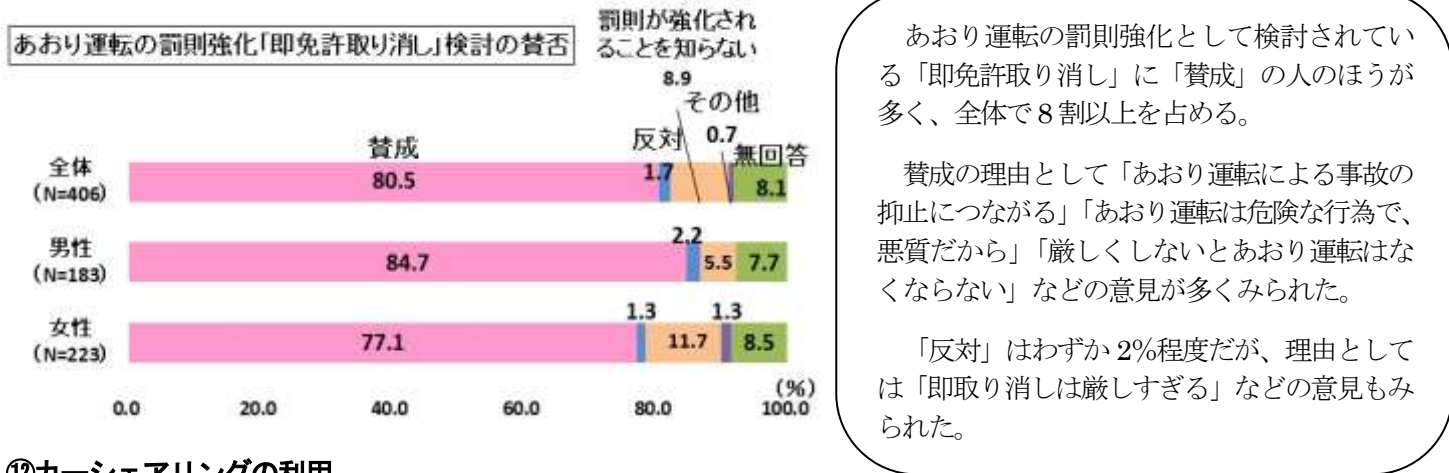
運転中「イライラしたことがある人」は全体の9割近く。イライラの原因では「強引な割り込み」「方向指示器を出さない」「車間距離を詰められる」「スピードが遅い」などが多かった。



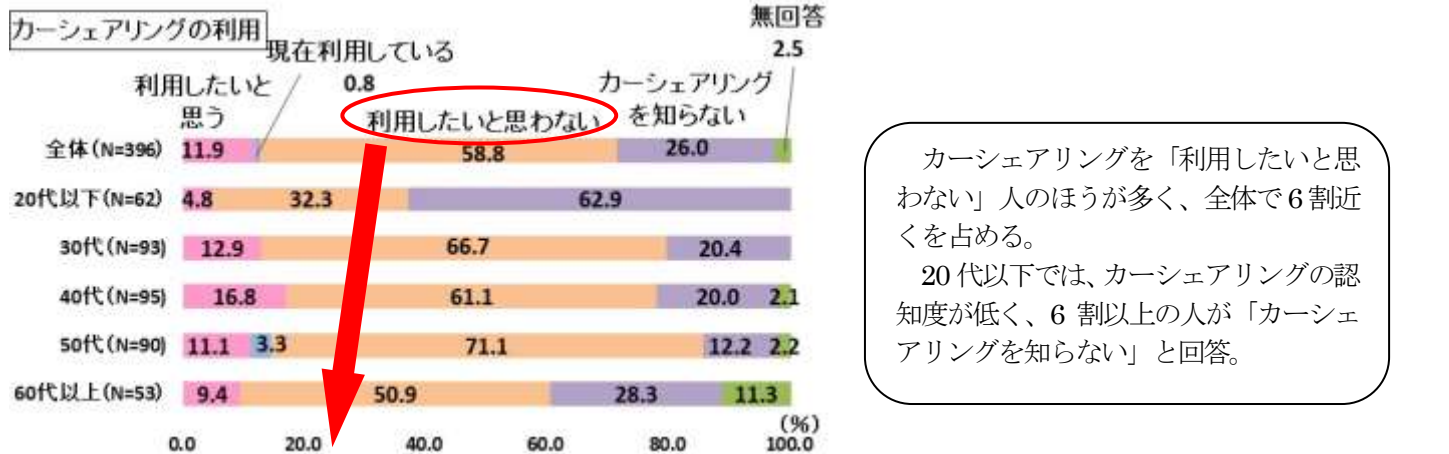
⑩危険な運転の被害（他の人が運転する車に同乗中も含む）（複数回答）



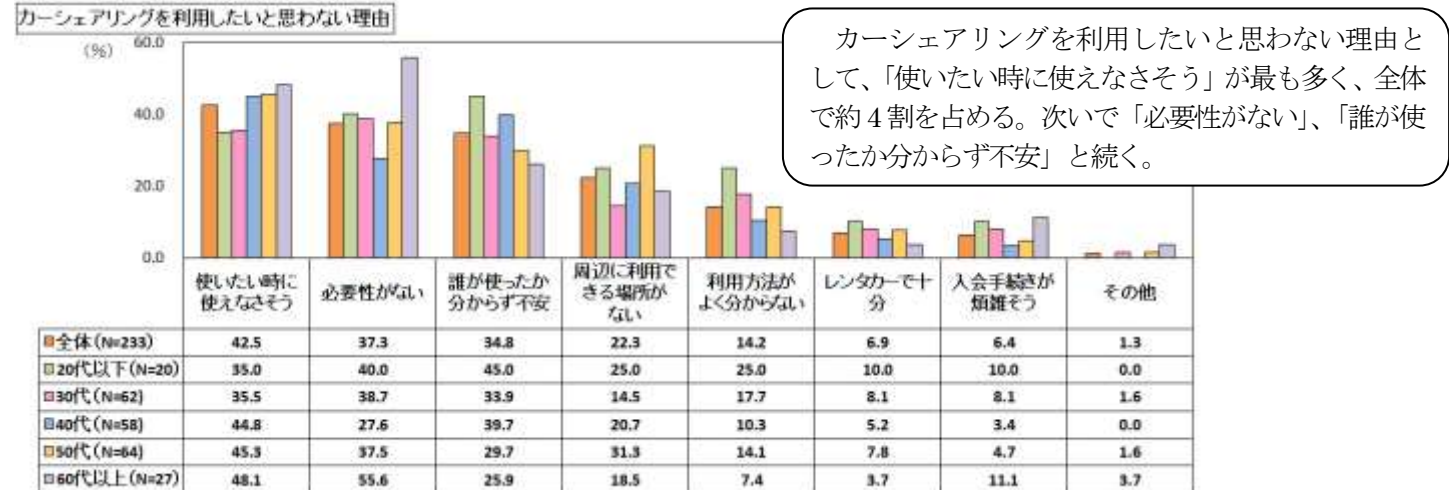
⑪あおり運転の罰則強化として検討されている「即免許取り消し」の賛否



⑫カーシェアリングの利用



⑬（⑫でカーシェアリング利用したいと思わない人のみ）カーシェアリングを利用したいと思わない理由



## ⑭自動運転への期待とその理由

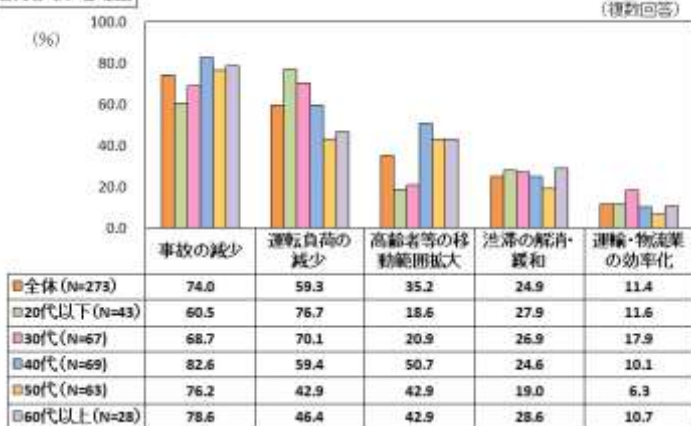
### 自動運転への期待



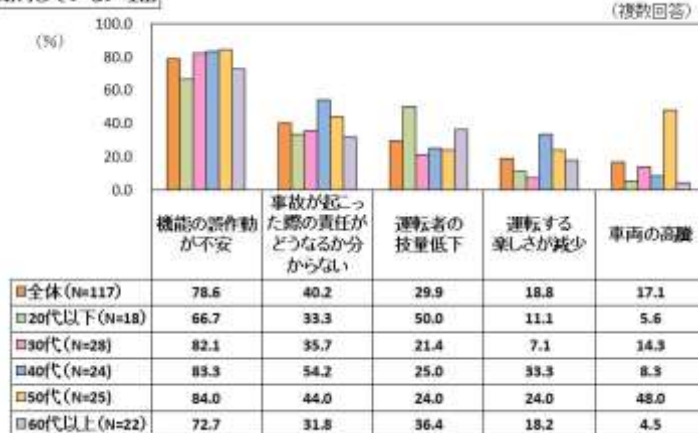
自動運転へ「期待している」人のほうが多く、全体で6割以上を占めている。

「期待している」は、30代・40代では7割上。60代以上になると半数以下と、年代によって期待度は変わっている。

### 期待している理由



### 期待していない理由



期待している理由は「事故の減少」が最も多く、全体で7割以上。次いで「運転負担の減少」が6割近くを占める。

期待していない理由は「機能の誤作動が不安」が全体で8割近くを占める。

## ⑮自動運転普及後の自動運転車の購入について

### 自動運転車の購入



自動運転が普及したら、自動運転車を「購入したい」と考えている人のほうが多く、全体で約6割近く占める。

購入したい理由としては「自分が運転するより安全」「長距離運転が楽になる」「便利」などの意見が多くみられた。中には、「安全性が保障されたら」「安く買えるなら」といった条件がクリアされれば、購入したいと考えている人もいた。

購入したくない理由は「機械を完全に信用できない」「自分で運転したい」などが挙げられていた。

### 【まとめ】

- ・車の免許や車の所有率は9割を超え、仕事や生活に車が欠かせない人が多い。
- ・高齢者による事故が多発していることなどから、運転免許に年齢制限を設けたほうが良いと考えている人が多いものの、生活環境や個人の能力などにも差があることから、年齢だけで線引きすることはなかなか難しいことがうかがえる。
- ・あおり運転罰則強化検討について、賛成派が多数となっており、あおり運転をなくすためには必要と考えている人が多くみられた。運転中はイライラしてしまうこともあり、気づかぬうちに相手にあおり運転と感じられてしまう可能性もあるため、危険運転の加害者・被害者にならないためには余裕を持った運転だけではなく、ドライブレコーダーの搭載などの装備も重要となってくると思われる。
- ・自動運転への期待をしている人は多く、普及した場合、購入したいと考えている人も多い。ただ、年代によっては、期待度が低く、購入したいという人の割合も少なくなっている。機械への信頼性というのがまだ低く、今後、自動運転が普及するためには安全性・車両の価格などの条件が揃ってこなければならないと思われる。